

1. 評価結果概要表

作成日 2007年12月10日

【評価実施概要】

事業所番号	0870300357
法人名	医療法人社団 青洲会
事業所名	グループホーム おらが里
所在地 (電話番号)	茨城県土浦市神立中央5-11-2 (電話)029-832-3931

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年11月1日	評価確定日	平成20年2月19日

【情報提供票より】(平成19年10月15日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 10 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 人

(2)建物概要

建物形態	併設/ 単独	新築/ 改築
建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4)利用者の概要(10月15日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名	
要介護1	1 名	要介護2	5 名			
要介護3	2 名	要介護4	1 名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	88 歳	最低	79 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 青洲会 神立病院 ・ ちやぞの歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人の病院内の敷地にあるホームであり、医療や緊急時のバックアップ体制が整っている。ハード面に関する悩みもあるが、様々な工夫を凝らしながら全職員で取り組みを行っている。利用者は職員と共に自由に暮らしている様子である。訪問時には保育園児が遊びに来ており、利用者の生き生きとした表情や発言などを目にする事ができた。法人内での各施設との交流があり、地域との関わりも住民の快い協力や推進会議を通して、徐々に確立されつつある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>家族に介護計画作成後、計画内容をきちんと説明する機会を設け、確認や意見、サインを貰うなどの取り組みを行った。説明の機会は面会時に行うようにしたが、会えない家族には郵送をし、確認をして貰うようにした。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の必要性を職員に再度話し、自己評価について職員と共に話し合いを行いながら評価に取り組んだ。話し合いに参加できない職員には自己評価表に目を通してもらい、意見を出し合うよう認識の統一を図った。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>ホームの報告や利用者へのサービス提供に関することや、自治会入会についての話し合いをこれまでにやってきている。家族や地区の代表者の方が会議に積極的であり、今後は様々な協力や連携、外部評価に関する事も議題にあげてサービスの向上に繋げたい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の面会が多いこともあり、面会時を利用して意見や苦情など積極的に聞いている。普段から家族との信頼関係を築きながら対応できるようにしているが、今後は家族アンケートをとり、率直な意見があるのではと考えアンケート内容を検討している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に入会が決まっており、地区長と話し合いができる機会をつくり、地元の方々と交流が図れるように考えている。自治会を通してホームと地域の情報の共有に努めていく。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で考え、決めた事業所独自の理念を掲げている。地域の一員として考えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングやカンファレンスなどで、話し合いの機会を設け、理念を基にケアの方向性を考えながら取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内や地区のお祭りなどの行事に参加したり、かすみがうらマラソンの応援に参加している。地域との交流を深めるために、自治会への入会が決定している。情報交換を自治会会長と話を進めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については職員と考え、話し合いを行いながら評価の実施に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまでに2回の会議が行われており、質の向上に向けて客観的な意見を貰ったり、協力が得られるように会議を活かし進めている。会議議事録もきちんと記載され保管されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1回、市の地域密着型連絡会への参加や月1回の介護相談員の受け入れを行いながら、市町村との連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に利用者の近況報告や金銭に関する説明、ホームの新聞、法人の広報誌などを渡している。面会の難しい家族には電話での近況報告を月に1回程度、連絡事項があるとき等を利用し出来る限り行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会が多いこともあり、あえて苦情箱などは設置していない。お会いしたときに意見を貰うように、普段から話しやすい関係作りに取り組んでいる。今後は家族へのアンケートを行う予定でもある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動もあるのが現状であるため、利用者に影響がないよう、異動時には職員からきちんと挨拶をし、利用者理解が得られている状況である。離職した職員がホームに顔を出すこともあり、利用者には喜ばれている状況である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者を含め、職員は内部・外部研修の案内に目を通し、自分の行ってみたい研修に積極的に参加をしている。管理者側からも職員に研修参加を促すこともある。研修後はレポートを提出し、ミーティングで報告、資料配布などし、ファイル化されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での交流はあり、訪問することもあるが、外部の同業者との関わりが少ない。今後は交流の機会が持てるように考えている。	○	市の地域密着型連絡会に参加しているので、その機会を有効に使い、これから積極的に交流できるよう、外部に目を向けていくことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の際には家族と相談をしながら、顔見知りの関係を築くなど徐々に馴染めるように時間をかけ利用者が安心できるような対応策がある。体験入居も可能な体制になっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の意見や考えを第一に、助けたり、助けられたりの関係作りに努めている。介護についてを話し合うことで振り返りをおこなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は先入観を持たないようにしている。一人ひとりの意向を把握し、情報などを記録に記載しながら職員全体で検討をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成に関しては、本人の意見や家族の意向など取り入れ作成している。利用者に伝えることが困難な場合には様子を家族に伝え、了解を得ている。作成の際には個々の日々の記録や、必要時には管理栄養士や医療スタッフ、リハビリスタッフのアドバイスも参考になっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月ケアカンファレンスを実施し職員は話し合いをしている。モニタリングがされており、モニタリング用紙も記載がなされ、保管されている。見直しの際には家族にも説明を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族のその時々状況や要望に応じて、法人内の他部署との連携を図りながら、柔軟な対応ができる体制づくりとなっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は法人内の併設されている病院にて支援を行っているが、利用者や家族からの要望によりこれまでのかかりつけの病院が希望された場合には受け入れの体制が整っている。家族の相談で近隣の病院を紹介することもある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期に関する説明を入居時に行っており、ホームとしての考えをきちんと家族に伝え、同意書を貰っている。現在は併設の病院と家族、ホームと相談をしながら方針を決めていく体制が整っている。マニュアルの準備もしており、職員もホームの方針の共有に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	普段のケアの中で言葉かけや対応に関しては配慮するよう心がけている。新聞や広報誌などに掲載する写真などもきちんと家族に相談、説明をし、承諾を得ている。	○	今後は口頭での説明や承諾を貰うのではなく、同意書の作成など書面に残しておく必要があるかと思われる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活のリズムに合わせた、その人のペースを守りながら暮らしの支援を心がけ、配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が共に準備や調理を行い、旬の食材や利用者の好みの献立づくりをすることで食事が楽しみになるように支援している。一緒に食事を摂り、会話を多く持つようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に添いながら好きな時間に入浴できる体制となっている。法人内他施設の大浴場に行き庭園を眺めながら、環境を変え楽しむこともできる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は「連携シート」を活用し、生活歴や個々の力をどう活かせるか把握に努め、趣味の継続や得意とするものを役割に繋がるように生活に関して考慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所のコンビニなどに買い物に出かけたり、法人内のグループホームや保育園の園児との交流、また、デイケアに訪問し、カラオケを楽しむ機会がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム内は鍵をかけず、オープンである。夜間のみ鍵をかけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人内での合同消防訓練に参加、緊急時や火災などに関する防災マニュアルが用意されている。緊急時には地域との連携がとれるように推進会議の議題として取り上げたいと考えている。	○	法人としての対応策やマニュアルは用意され、職員も取り組みを行っているが、ホーム独自の各種マニュアルや災害に備えての備蓄品を準備していくことが今後望ましいと考える。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分のチェックは実施されており、記録に残している。栄養バランスを考え職員が献立を考えており、法人の栄養士の指導を貰っている。栄養士には治療食についても相談ができる。摂取量や食事形態は個々に合わせて応じている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶箆箆や季節の花を置き、季節感や生活感のある環境づくりに努めている。ソファや畳のへやも用意されており、共用空間は工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には持ち込みについての説明を十分に行い、利用者のこれまでの生活に近づけるように配慮されている。また、利用者本人が持参したいものは持ってきてもらい、居室は一人ひとりの個性がある。		